

# 中国シェイクスピア受容の黎明

瀬戸 宏

摂南大学 外国語学部 摂大人文学 第19号別刷

2012年2月

## 中国シェイクスピア受容の黎明

瀬戸 宏

シェイクスピア作品が世界の演劇史、文学史に占める位置はいうまでもない。そして彼の作品はイギリス以外の世界各国の演劇、文学にも大きな影響を与えた。中国もその例外ではない。中国でシェイクスピアが本格的に紹介されるのは、言葉を換えれば完全な形で作品翻訳が現れるのは、五四新文化運動を経た一九二〇年代以降である。

もちろん、中国でシェイクスピアは一九二〇年代に突然中国に紹介されたのではない。それに先立つ前史がある。ここでは中国シェイクスピア受容の黎明ともいうべき、新文化運動以前のシェイクスピア受容の経過をたどり、そこに潜む問題を探ることとしたい。

—

シェイクスピアは、中国語では莎士比亞と表記する。ピンイン(中国語ローマ字)では Shashibiya、中国音に近いカナ表記ではシャーシービーヤーとなる。

西洋人の名前を漢字表記する場合、中華人民共和国(中国国内)と台湾では表記が異なっていることがある。一九四九年の中国革命で国民党が中国共産党に追われて台湾に逃げ込み大陸と台湾が政治的に分断されて以降、中華人民共和国と台湾はそれぞれ文化的に独自の道を歩み、二十世紀九十年代までほとんど交流がなかったからである。たとえば、二十世紀後半の世界演劇に大きな影響を与えた「ゴドーを待ちながら」は、中国国内では「等待戈多」、台湾では「等待果陀」と表記する。発音も少し違う。この劇は二十世紀六十年代に中国国内、台湾にそれぞれ別個に紹介され、中国国内、台湾の演劇にも重大な影響を与え、最初に使われた表記が固定してしまったのである。

しかし、シェイクスピアについては中国国内、台湾で違いはない。この表

記が、一九四九年の中国革命のはるか以前に確定していたからである。

では、中国に最初にシェイクスピアの名が伝わったのはいつのことなのだろうか。(1)

中国シェイクスピア受容史の代表的研究書である孟憲強「中国莎学簡史」に拠れば、中国に最初にシェイクスピアの名を伝えたのは、一八五六年に上海で刊行されたイギリス人宣教師ウィリアム・ミュアヘッド (William Muirhead 慕維廉) 訳・トーマス・ミルナー (T. Milner 托馬斯米爾納) 『大英国志』であった。そこではシェイクスピアは、舌克斯畢の表記で紹介されていた。これが中国での通説となっている。私自身も、通説に依拠して何度かそう書いたことがある。(2)

しかし、今日ではそれ以前にシェイクスピアの名が中国に伝わっていたことが明らかにされている。李長林・杜平「中国のシェイクスピアに対する理解と研究－『中国莎学簡史』補遺」(『中国对莎士比亚的了解与研究－《中国莎学簡史》補遺」『中国比較文学』一九九七年第四期)によれば、一八四四年に刊行された魏源編『海国図志』に、沙士比阿の表記で紹介がある。これは、シェイクスピアをイギリスの著名な詩人として、ミルトン、スペンサー、ドライデンと並べて記述したものであった。岩田高明「士達薩, Who are you?」(『安田女子大学図書館報・図書独娛』創刊号 2003年)にも同様の指摘がある。(3) この記述の材源が、一八三四年に刊行されたヒュー・マレー「地理学百科事典」(Hugh Murray An Encyclopedia of Geogaphy 『地理学大全』などとも訳される)であることは、岩田高明によって明らかにされている。

しかし、『海国図志』のシェイクスピアに関する記述は、中国では長い間忘れられていた。『海国図志』は、出版時の中国で一定の注目は集めたものの、

- 1 第一節は、孟憲強「中国莎学簡史」(東北師範大学出版社 一九九四年)に依拠した部分が多い。
- 2 瀬戸宏「中国のシェイクスピア受容略史」(『シアターアーツ』11号 二〇〇二年)、「林村のシェイクスピア観」(『演劇博物館グローバルCOE 紀要 演劇映像学2008 第一集』早稲田大学演劇博物館グローバルCOEプログラム「演劇映像の国際的教育研究拠点 二〇〇九年)ほか。
- 3 「有沙士比阿、弥而頓、士達薩、特弥頓四人詩文、富著述」(『海国図志』四 台湾・成文出版社 民国五六年)一八一二頁。なお岩田高明によれば、士達薩は士達薩の誤記。

それほど大きな影響は与えなかった。『海国図志』の原型である『四洲志』(4)について、翻訳者の語学力と欧米理解の不十分さから、不的確な訳が多いことが指摘されている。「中国人の訳した『四洲志』よりも外人宣教師が漢文で著した図書の方が中国人にも理解しやすかった」(5)のである。『海国図志』は一八五一年日本に輸入されてからは、中国とは逆に大きな影響を幕末の知識人に与えるのであるが、それは本論の目的と外れるのでこれ以上述べない。

恐らくこのような理由から、『大英国志』が中国におけるシェイクスピア紹介の最初として中国人の間で記憶されてきたのであろう。『大英国志』のシェイクスピア紹介の部分を引用しておく。

「エリザベス時代には、そこで書かれた詩文は、美しさと質の高さがともに備わり、現在に至るまでそれを上回ることがない。学者・文人には、たとえばシドニー、スペンサー、リリー、シェイクスピア、ベーコン、フォードなどがおり、皆よく知られた人々である。」(6)

いずれにせよ、中国にシェイクスピアの名が伝わったのは、アヘン戦争による強制開国の後のことであった。

一方、日本語の文献に最初にシェイクスピアの名が現れるのは、一八四〇～四一（天保一一、二）年頃とされる。江戸幕府の天文方の渋川六蔵がリンドレー・マレー著の英文典をオランダ語から重訳した『英文典』の中に、シャーケスピールの表記で現れたのが最初という。(7)『海国図志』と比べても、日本の方が早い。ペリーの黒船が一八五三（嘉永六）年来航するまで日本は鎖国中だったが、開国以前にシェイクスピアの名はすでに伝えられていたのである。アヘン戦争以前の中国は、精神的には日本よりも閉鎖的だったといえよう。

ただし、『大英国志』の影響は意外なところに現れている。『大英国志』はまもなく日本に伝わり『英国志』として復刻され、日本人の間で広く読まれ

4 佐々木正哉「『海国図志』余談」（『近代中国』第一七巻 一九八五）などによれば、『海国図志』が刊行される以前、『四洲志』が単独で出版されることはなく、『海国図志』刊行が『四洲志』刊行でもあった。

5 佐々木正哉「近代中国における対外認識と立憲思想の展開（二）」（『近代中国』第一七巻 一九八五）

6 「当以利沙伯時、所著詩文、美善俱尽、至今無以遇之也。儒林中如錫的尼、斯本色、拉勒、舌克斯畢、倍根、呼格等、皆知名之士。」

7 河竹登志夫『日本のハムレット』（南窓社 一九七二年）

た。一八七一年（明治四）年刊行のサミュエル・マイルズ、中村正直訳『西国立志編』は、西洋の価値観を伝え明治維新直後のベストセラーであった。この中にシェイクスピアにも一節が割かれていて日本最初の具体的なシェイクスピア紹介となったこともよく知られている。この『西国立志編』のシェイクスピア表記が舌克斯畢なのである。この事実は、当時の中国と日本の間には漢字を媒介とした交流、現在風に言えば知のネットワークがあったことを示している。

その後も、欧米人のキリスト教関係者が中国で出版した著述の中に、シェイクスピアの名が断片的に現れている。しかし、キリスト教関係者による紹介は、閉鎖的な中国文化風土にあっては、ほとんど影響力を持ちえなかった。中国人の精神世界に影響を与えるシェイクスピア紹介は、やはり中国人自身の手で行なわれなければならなかった。

『海国図志』を別にすれば、中国人が最初にシェイクスピアについて記したのは、郭嵩燾（一八一八～一八九一）とされている。郭嵩燾は清末の外交官で、一八七六年に駐英公使に、七八年には兼任で駐仏公使にも任ぜられた。郭嵩燾の滯英中の日記には、一八七七年から七九年にかけて三回にわたってシェイクスピア（舎克斯畢爾）が現れる。郭嵩燾と同時期に英仏に派遣された曾紀沢（一八三九～一八九〇、曾國藩の子）も一八七九年三月七日の日記にシェイクスピアについて触れている。ここではシェイクスピアの名は現れないが、記されている劇は明らかに「ハムレット」である。

しかし、これらは断片的にシェイクスピアに触れたもので、しかも彼らの日記上であった。具体的な内容をもったシェイクスピア紹介が開始されるのは、一八九四年から九五年の日清戦争（中国側の呼称は甲午戦争）以後のことである。それまで東海の夷荻と思っていた小国の日本に敗れたことは、中国の知識階層に衝撃を与えた。外国の思想・文化を学び中国を改革する必要性を主張する人々が層として出現したのである。

嚴復『天演論』はT・H・ハックスレー『進化と倫理』（一八九三）の翻訳で、一八九八年に刊行され、進化論に基づく優勝劣敗の法則を説き、同時代の青年たちに大きな影響を与えた本である。そこでシェイクスピアは狹斯丕爾の表記で紹介されている。魯迅も『天演論』に影響を受けた一人で、日本留学中の無名時代の一九〇八年にあいついで発表した『科学史教篇』『摩羅詩力説』『文化偏至論』の中で、いずれもシェイクスピアについて言及しているが、その表記は嚴復『天演論』と同じ狹斯丕爾で、魯迅が受けた影響の大きさを

示している。

これら知識人のシェイクスピア言及の中で今日までにおよぶ大きな影響があったのは、梁啓超によるものである。梁啓超は清朝の革新官僚として康有為、譚嗣同らとともに、具体的に運動を進めたが、変法運動は西太后ら保守派の容認するところとならず、一九〇八年に戊戌の政変と呼ばれるクーデターをおこされ、運動は挫折した。譚嗣同は処刑され、康有為、梁啓超らは日本・横浜に亡命して運動を継続した。彼らは横浜で『清議報』『新小説』などの雑誌を刊行して論陣を張り、中国新文化運動の先駆けとなったのである。

梁啓超『飲冰室詩話』はこの時期広く読まれたエッセイだが、その中で、梁啓超は次のように記している。

「ギリシャの詩人ホメロスは古代第一の文豪である。近代の詩人では、たとえばシェイクスピア・ミルトン・テニスンなどは、その詩はまた数万言を数える。偉大ではないか。文の表現はもちろん、その気迫ももとより人の心を奪い取るものである。」(初出は『新民叢報』一九〇二年五月号)(8)

ここで梁啓超はシェイクスピアを莎士比亞と記していた。莎士比亞という表記は梁啓超から始まったのである。梁啓超の影響がいかに大きかったか、知ることができよう。

ともあれ、中国では莎士比亞が定着するまで『海国図志』の沙士比阿から始まり、さまざまな表記がおこなわれた。莎士比亞以外の表記を、列挙してみよう。

舍克斯畢爾(『郭嵩燾日記』一八七六)、沙斯皮耳(謝衛樓『万国通鑑』一八八二)、簡斯比爾(艾約瑟『西学啓蒙十六種』一八八五)、狹斯丕爾(嚴復『天演論』一八九八)、沙基斯庇爾(李提摩太『泰西歷代名人伝』一九〇三)、索士比亞(『瀕外奇譚』一九〇三)、夏克思訖爾(李思・倫白・約翰『万国通史』一九〇四)、索士比爾(『東西洋尚友録』一九〇三)、希哀苦皮阿(『大陸』一九〇四)、莎士比(林紓『吟叢燕語』一九〇四)、葉斯璧(『近世界六十名人伝』一九〇七)、沙克皮爾(『世界名人伝略』一九〇八)など。(9)

## 二

8 希臘詩人荷馬、古代第一文豪也。近代詩家、如莎士比亞彌爾頓田尼遜等、其詩動亦数万言、偉哉！勿論文藻、即其氣魄、固已奪人矣。

9 このリストは、孟憲強『中国沙学簡史』を参考に、瀬戸が補ったものである。

しかし、梁啓超らはシェイクスピアを簡単に紹介しただけにすぎなかった。中国でシェイクスピア作品の内容が具体的に伝わったのは、一九〇三年出版の『瀕外奇譚』（達文社）（10）からである。

『瀕外奇譚』（別名『海外奇譚』）は、ラム『シェイクスピア物語』の翻訳で、全二十編の中から十編を選んでいた。表紙は“瀕外奇譚”だが、目次、本文、奥付は“海外奇譚”である。無署名のため訳者は不明である。シェイクスピアは索士比亞となっていた。冒頭につけられた叙例によれば、『瀕外奇譚』はラム『シェイクスピア物語』から「最もよいもの十章を選んで翻訳した」もので、「書中の人名はすべて意をもって訳し、中国の姓名に似せた」とある。各章には中国章回小説風の題名がつけられ、その内容は次の通りである。

第一章 蒲魯薩貪色背良朋（蒲魯薩は色を貪り良友に背く ペローナの二紳士）

第二章 燕敦里借債約割肉（燕敦里は金を借り肉を切ることを約束する ベニスの商人）

第三章 武歴維錯愛孿生女（武歴維は双子の女を間違って愛する 十二夜）

第四章 畢楚里馴服惡癖娘（畢楚里は悪癖のある女を飼い慣らす じゃじゃ馬ならし）

第五章 錯中錯埃国出奇聞（間違いの中に間違いが重なり、不思議な話が国から生まれる 間違いの喜劇）

第六章 計上計情妻儉戒指（はかりごとを重ね妻は指輪を盗む 終わりよければすべてよし）

第七章 冒險尋夫終諧伉儷（冒險し夫を捜しついに共にすごす シンベリン）

第八章 苦心救弟堅守貞操（苦心して弟を救い貞操を守る 尺には尺を）

第九章 懷妬心李安德棄妻（嫉妬の心を抱いて李安德は妻を捨てる 冬物語）

第十章 報大仇韓利德殺叔（大仇に報い韓利徳は叔父を殺す ハムレット）

『瀕外奇譚』の訳文をみると、意訳部分などはあるが、基本的には英語原文の内容を正しく伝えていることがわかる。しかし、たとえば「報大仇韓利徳殺叔」では、国名は丹麦（デンマーク）と訳しながら人名は韓利徳（ハムレット）、葛洛兆（クローディアス）と中国風にするなどは、やはりおかし

10 中国北京・国家図書館に所蔵されている。『瀕外奇譚』については、瀬戸宏『《瀕外奇譚》について』（『中国文学研究会会報』第三二二号 二〇〇八年八月）も参照されたい。

な印象を与える。

『瀛外奇譚』にはほかにも問題がある。『ロミオとジュリエット』『マクベス』『オセロー』『リア王』など悲劇系の名作の大半が収録されていないのである。四大悲劇の三つやシェイクスピア作品として恐らく『ハムレット』と並んで最も人口に膾炙した『ロミオとジュリエット』を落としたことは、『瀛外奇譚』をシェイクスピア紹介としては致命的な弱点を背負ったものにしてしまった。表紙と目次・奥付の書名が異なっているのも、本書が十分な校正もなくあわただしく刊行されたことを示していると思われる。次に述べるように、一年とたたずに『シェイクスピア物語』全訳である『吟辺燕語』が出版されたこともあり、『瀛外奇譚』はほとんど影響力を発揮できず忘れられていった。

ただし、『瀛外奇譚』は『吟辺燕語』に比べて非常に優れた点がある。叙例で「この本は元は詩体であった。イギリスの学者ラムが散文に改め、『シェイクスピア物語』とした。ここにその最もよいもの一〇編を選んで翻訳し、現在の題名とした。」(11)と述べ、底本がラム『シェイクスピア物語』であることを明らかにしていたのである。

一九〇四年林紘・魏易『吟辺燕語』が商務印書館から出版された。林紘は莎士比と表記していた。梁啓超の影響が感じられる表記である。『吟辺燕語』出現をもって、中国における実質的なシェイクスピア紹介の始まりとみなすこともできよう。題名の吟辺燕語は、「詩を吟じる場所での親しげな語り」の意味であろう。(12)

訳者の林紘(一八五二～一九二四)は、シェイクスピアだけでなく清末の西洋文学小説紹介全体で大きな役割を果たした人物である。別稿(13)で林紘の生涯と翻訳の特徴について述べたので、ここではこれ以上述べない。ただ、よく知られているように、林紘は外国語が読めず、彼の翻訳は、彼の協力者が口述したものを中国古文に直すことであったことはここでも記しておきたい。

林訳小説については、中国現代文学で大きな役割を果たした郭沫若も、後

11 是書原係詩體。經英儒蘭卜行以散文，定名曰 Tales From Shakespere 茲選譯其最佳者十章。名以今名。

12 「林紘のシェイクスピア観」。李慶国「吟辺燕語留余韻—林訳小説書・篇名一瞥」(『清末小説』第33号 二〇一〇年)は「吟辺」一詞意為「詩中」或「作詩」と述べる。

13 「林紘のシェイクスピア観」

に次のように『吟辺燕語』の名を挙げて初読時の印象を語っている。

「林訳の小説で、のちのわたしの文学傾向に決定的影響をもたらしたのは、Scott（英、一九世紀の小説家で、多く古代武士生活を描いた）の《Ivanhoe》で、彼はこれを『撒喀遜劫後英雄略』として訳していた。この書を後日、わたしは英文で読んで訳訳や省略箇所を少なからず発見したが、あのロマンチズムの精神だけは、彼はわれわれに生きいきと示してくれている。……彼について深く研究したわけではないが、幼時に刻み込まれた感銘は、車のわだちについた旧道同様に、なかなか消えないものである。

Lamb（英、一九世紀の文学者）の《Tales from Shakespeare》-林琴南訳では『英国詩人吟辺燕語』（一般には『莎氏楽府』と訳されている）-も、わたしに無上の興味をもたらした。それは無形のうちにわたしに大きな影響を及ぼした。後日さらに《Tempest》《Hamlet》《Romeo and Juliet》など、シェイクスピアの原作を読んだが、どうしても子どもの時に読んだ童話的な訳ほどには親しめなかった。」（『わたしの少年時代』）

『吟辺燕語』二十編は、それぞれ中国古典小説風の題名がつけられている。その題名を順にあげておこう。

肉券（ベニスの商人）、馴悍（じゃじゃ馬馴らし）、堆誤（間違いの悲劇）、鎔情（ロミオとジュリエット）、仇金（アテネのタイモン）、神合（ペリクリーズ）、精征（マクベス）、医譜（終わりよければすべてよし）、獄配（尺には尺を）、鬼詔（ハムレット）、環証（シンベリン）、女妾（リア王）、林集（お気に召すまま）、礼映（から騒ぎ）、仙猶（真夏の夜の夢）、珠還（冬物語）、黒道（オセロー）、婚詭（十二夜）、情惑（ペローナの二紳士）、颯引（あらし）

『吟辺燕語』など林訳小説が翻訳としては特殊なものであることは、すでに指摘した。その翻訳文体は具体的にはどのようなものなのか。『肉券』の一部を訳文と原文で引用し、さらにラム『シェイクスピア物語』の正確な訳文と対照しておこう。

ポーシャにはベラリオという親戚がおり、法律に精通していた。ポーシャは手紙で意見を求め、またその衣装一式を借りた。手紙はすでに届き、ポーシャはやはり弁護士の変装し、また侍女も書記の姿にさせ、ベニスへと急いだ。その時、公爵はこの獄の尋問に臨んだばかりであった。ポーシャはベ氏が公爵にあてた手紙を示した。手紙に言う「私はアン君のために疑惑をはらそうと早くから考えていたが、病気のため行くことが出来ない。今、

長年の友人バルターザに裁判に臨み、アン氏のために弁護するよう依頼した。」公爵はこれを許した。そして裁判所の人々は弁護士の美貌をみて、長い間驚いていた。・・・ポーシャは言った。「あなたはアントニーがこの金を出すことができないので、その肉でよいことにしたのか。」言葉がまだ終わらないうちに、パッサニオは三千円を捧げ持って言った。「お金はあります。たとえ数倍の金を求められてもかまいません。弁護士様には、法律からはずれて許し、わが良友をお救いください。」ポーシャは怒って言った。「国が法律を定めたのだ。どうして許すことができようか。」シャイロックは喜んで叫んだ。「ダニエル様がやってきて裁きをつけてくださる。」ダニエルとは、ユダヤ人の名裁判官である。弁護士は年は若いが裁判に臨むとこのように老練なのであった。ポーシャは証文を求め、読み終わって言った。「証文ははっきりしている。法律により、アントニーは心臓の肉を切り取られるべきである。しかし、私は金を受け取りこの証文を破ることにしたいが。」シャイロックはきっぱりと断った。(14)

一方、ラムの原作はどうか。英語原文に忠実な日本語訳文(松本恵子訳「シェイクスピア物語」新潮文庫)を以下に引用してみよう。(英語原文は省略)

ポーシャは法律顧問をしている親類をもっていました。彼女はベラリオというその紳士に手紙を書き、試験の説明をして彼の意見を求め、彼の忠告とともに弁護士のきる制服を送ってくれるよう頼みました。使者が帰ってきて、ベラリオからどういうふうのことを運ぶかという助言を書いた手紙とともに、彼女の準備に必要なものをすべて持ってきました。

ポーシャは男装し、侍女のネリッサにも男装をさせ、自分は弁護士の制服をまとい、ネリッサを書記として連れていくことにしました。それで二人は直ちに出發したので公判の当日ベニスに到着しました。その事件はちょうど

- 14 鮑梯震有感嘆貝拉略，精於刑律者也，鮑梯震以書請托名以往，且假其衣飾一行。書既報聞，鮑梯震果變服為律師，並飾其侍兒為書記狀，馳至微臬司。時公爵方臨鞠此獄，鮑梯震出貝氏上公爵書，書云“吾夙計自來為安君平反獄事，願病莫至，今請以忘年友貝而涉臨鞠，為安氏弁曲直。”公爵允之。然堂之上下見律師貌美，恒奇駭。・・・鮑梯震曰“君以為安東尼不能出此金，故甘其肉乎？”語未竟，巴散奴捧三千圓上，且曰：“金固有，即多索子金至數倍者，當不敢較，並乞律師於法外行恕，拯吾良友。”鮑梯震怒曰“國家定律，安可恕者。”歇洛克樂而呼曰：“但尼而來乎亨讞矣。”但尼而者，犹太良有司也，律師妙年鞠讞，乃老練至此。鮑梯震趣取約，說竟曰：“約甚明毒，挾律安東尼當削却心頭肉矣，然以吾決之，得金為優，曷碎此約！”歇洛克堅勿承。

上院の建物の中で、ベニスの大公や上院議員たちの前で審問されるところでした。その時ポーシャはその高等裁判所へ入って行って、ベラリオからの手紙を提出しました。篤学な顧問弁護士は大公にあてて、自分は自身でアントニオの弁護に出廷したいのだが、病気に妨げられたので、自分の代わりに、その道に通じている若いバルタザー博士（彼はポーシャをそう名付けたのです）に弁護させることをお許し願いたいと書いたのです。大公はそれを許可しましたが、法服と大きなかちらで、巧みに変装をしているものの、その見知らぬ人物がいかにも若々しく見えるので、大そういぶかしがっていました。……

「アントニオは金を支払うことはできないのですか」とポーシャは尋ねました。

するとバッサニオは、ユダヤ人に三千ダカットを幾倍にでも彼の望むだけにして支払うと申し出ました。シャイロックはそれを拒み、なおもアントニオの肉一ポンドを取ることを主張したのです。バッサニオは学識ある若い弁護士が、アントニオの命を救うために少し法をまけるように骨を折ってくれと頼みました。けれどもポーシャは一度制定された法律は決して変えるべきではないと、きっぱりと答えました。

シャイロックはポーシャが法は変更すべきではないといったのを知り、てっきり自分の肩をもっているのだと思いこんで、「ダニエル様が裁判においてくださった！ おお、賢く若い裁判官様！ わしはあなた様をじつに尊敬いたします。あなた様はお顔よりも、ずんと年功をつんでおいてなさる！」といました。

ポーシャは今度は、シャイロックに証文を見せるように求め、それを読むと、

「この証文の品は没収されるべきである。これによってユダヤ人は、合法的に一ポンドの肉をアントニオの心臓に一番近いところから、切り取る権利がある」と言ってから、シャイロックに向かって

「慈悲をたれてはどうだね、金を受け取って、この証文を私に破らせないか」と言いました。

けれども残忍なシャイロックは慈悲など示すどころか、  
「わしはこの魂に誓って申すですが、人間の舌にわしの決心を変えさせる力

はござんせん」というのでした。(15)

林訳では随所に省略があること、同時にラムの原文の大意は正しく伝えて  
いることが理解できるであろう。

この林訳『吟辺燕語』は、後に見るように二十編の全部が脚色上演され  
るなど当時の中国で大きな反響を呼んだ。初版出版以後も何回か再版されて  
いる。

もう一つ、『吟辺燕語』で指摘しておかなければならないのは、林紓が序  
文で「私の聞いているところによれば、彼らの名士はシェイクスピアの詩を  
酷愛し、あらゆる家々が愛唱した。そしてそれにとどまらず、劇界に与えて  
台本としたという」と述べているように、シェイクスピアはまず詩としてそ  
の作品を書き、後にそれが劇界の上演台本となったと認識していたことであ  
る。いうまでもなく、実際のシェイクスピア作品発表過程は、林紓の認識と  
は逆であった。林紓は小説と戯曲の相違が理解できず、シェイクスピア作品  
の翻訳と物語化、小説化されたラム『シェイクスピア物語』の翻訳は別のこ  
とであることが認識できなかった。だから、『吟辺燕語』刊行にあたって林  
紓はただ莎士比亞原著とのみ記し、ラムの名を挙げなかった。

この林紓のシェイクスピア理解が、問題を引き起こした。林紓のシェイク  
スピア紹介は『吟辺燕語』でいったん中断し、一九一六年になって再び『享  
利六世遺事』（『ヘンリー六世』）など『吟辺燕語』に収録されていなかった  
歴史劇の紹介をおこなった。これはクイラー・クーチ（A.T.Quiller-Couch）  
『シェイクスピア歴史物語集』（Historical tailors From Shakespeare）に基  
づくものであった。この歴史劇紹介は『吟辺燕語』ほどの反響は呼ばなかつ  
たが、林紓はやはりシェイクスピア原作とのみ記したので、後に林紓はシェ  
イクスピア戯曲を小説体に変えて訳した、と誤解されることとなった。ラム  
『シェイクスピア物語』は著名であったので誤解の生じる余地はなかったが、  
クイラー・クーチは、当時の中国でほとんど知る人が無かったのである。こ  
の問題については別の場で詳述した（16）ので、ここでは繰り返さない。

15 チャールス・ラム著、松本恵子訳『シェイクスピア物語』（新潮文庫 一九五二年）

16 「林紓のシェイクスピア観」。なお同論文で示したように、『亨利六世遺事』などの原  
著がクイラー・クーチであることを発見したのは樽本照雄。

## 三

中国の舞台においても、シェイクスピア上演は現れた(17)。しかしそれは、文字による紹介以上に、シェイクスピア作品そのものとはかけ離れたものであった。シェイクスピア上演というよりもシェイクスピア関連上演、シェイクスピアもの上演といったほうがいい。この時期にシェイクスピアもの上演をおこなったのは、文明戯と呼ばれる演劇である。文明戯は中国早期話劇という別名からも理解できるように、日本の新派にも似た、伝統演劇と純粋な近代劇である話劇との中間的演劇形態である。

上演広告など確かな証拠のある最初のシェイクスピア関連上演は、一九一四年四月五日夜に行われた新民社「女律師」であろう。申報掲載の上演広告には、「『女律師』は『吟辺燕語』中の『肉券』に取材し、英国莎翁の最も価値ある作品である（女律師取材於吟辺燕語内肉券一則為英国莎翁最有価値之作）」とあり、明らかに「ベニスの商人」である。

なお、新民社は一九一三年十月一五日夜ほか何回か「劇悍記」を上演している。「吟辺燕語」中の「劇悍」（じゃじゃ馬馴らし）との関連が考えられるが、上演広告には「吟辺燕語」やシェイクスピアへの言及はなく、「およそ中国のこれまでの家庭社会の習慣を描写して残すところなし」とあるので、シェイクスピアとは無関係であろう。

この新民社「女律師」公演は好評であったのか、五月五日に行われた六大劇団連合上演では、「吟辺燕語」と同じ訳名である「肉券」の上演がおこなわれた。これは、この時期の文明戯主要六劇団が合同公演をおこなったもので、文明戯が最盛期にあることを示すものであった。六大劇団とは、民鳴、新民、春柳、啓民、開明、文明の各劇団である。

この「肉券」上演は、「新劇考」という一九一四年発行の幕表集に詳細な梗概が残されており、かなり詳しくその内容を知ることができる。「肉券」は「ベニスの商人」を直接上演したのではなく、「吟辺燕語」の一編を脚色したものである。文明戯には、重要な特徴があった。しっかりした戯曲がなく、幕表とよばれる粗筋をもとに、なかば即興で上演していたのである。一九一九年に発行された文明戯の梗概集「新劇考証」（鄭正秋編）をみると、

17 大学等での外国語教育の一環としての英語による上演は、ここでは触れないことにする。

『吟辺燕語』の二十編はすべて上演されている。中国の観客は、『吟辺燕語』の脚色でまずシェイクスピアを知ったのである。このうち最も歓迎されたのは『肉券』であったようである。

申報掲載広告によれば、“六大劇団連合演劇”の際の主なキャストは次の通りであった。(18)

巴山奴（バッサニオ）——新民葉風  
 安東尼（アントニー）——新民無恐  
 鮑栖霞（ポーシャ）——新民優游  
 梨紗（ネリッサ）——民鳴孤雁  
 薛祿克（シャイロック）——民鳴笑吾  
 貝乃良（ベラーリオ）——新民双雲

この人物表は『新劇考』のものと字の綴りなどがほぼ一致するから、『新劇考』収録の幕表によって、六大劇団連合演劇の舞台内容を知ることができると考えてよいであろう。

文明戯『肉券』はその幕表の冒頭に「是劇出自英国文豪莎士比亞所著—」とあるように、シェイクスピアから出た作品であるという自覚をもっている。しかし、すでにみたように、この『肉券』は『ベニスの商人』をそのまま翻訳したものではない。すなわち、シェイクスピアの原作『ベニスの商人』をまずラムが整理した『シェイクスピア物語』があり、次に林紓がそれを『吟辺燕語』として翻訳し、それをもとに脚色上演したという三段階を経ているのである。だから、文明戯『肉券』は『ベニスの商人』のあらすじは伝えているが、細部はたいへん異なったものになった。『新劇考』よれば、この『肉券』は六幕であった。いうまでもなく、シェイクスピア『ベニスの商人』は五幕である。幕数のほかにも、原作とは様々な点で相違があった。

最も大きな違いは、ポーシャの居住地および全体の舞台が、「倫敦女子鮑栖霞」とあるように、ベニスなどではなくロンドンになっていることである。林紓訳『肉券』では、ポーシャの居住地は「鮑梯霞、貝而孟徳人也」と原作と同様はつきりベルモントと指定していた。主要な舞台であるベニスも同様に林紓訳では明記されている。おそらく文明戯『肉券』の脚色者は、ベルモントやベニスというなじみのない町より、“英国文豪”シェイクスピアの劇

18 『肉券』上演に関する記述は、瀬戸宏『中国話劇成立史研究』（東方書店 2005）と記述が一部重複する部分がある。

だからロンドンの方がよいと単純に考えて改めたのだろう。そうとしか考えようがないのである。脚色者がシェイクスピア『ベニスの商人』を知らず、観客もまた同様であったことは間違いない。

次の大きな違いは、シャイロックがユダヤ人であることが、明記されていないことである。シャイロックについても、林紘訳『肉券』はすでにみたようにユダヤ人であると明記している。これも、同様にそれほど深く考えずに行った事と思われる。一九一〇年代の上海市民は、おそらくユダヤ人に関する知識を持っていなかったのだろう。ただし『新劇考証』収録の『肉券』ではシャイロックをユダヤ人と明記しており、実際の舞台には、ユダヤ人に関するセリフがあったのかもしれない。しかし『新劇考』の幕表にそれが記されていないことは、『新劇考』の執筆者すなわち観客の代表が、これにさして関心をもっていなかったことを示している。

また裁判に敗れたシャイロックは原作『ベニスの商人』では、キリスト教への改宗と娘への財産譲渡を約束させられるが、文明戯『肉券』では“四等有期徒刑・三百元以下之罰金”に処せられる。四等有期徒刑の内容は不明であるが、おそらく当時の刑罰の一種であろう。

このほか、ポーシャが始めからバザーニオの婚約者になっていること、シャイロックの娘ジェシカについての記述をまったく欠いていることも原作と違っている。

また、モロッコ王・アラゴン王の箱選びのくだりがないこと（この点は、ラム『シェイクスピア物語』の段階ですでに削られている）や、裁判勝利後、バザーニオとアントニーがベラーリオを訪問するというような改変もみられる。

しかし、これらの改変が、文明戯『肉券』を『ベニスの商人』とも林紘訳『肉券』とすらもまったく異なったものにしてしまったことは明らかであろう。舞台がベニスではなく、ユダヤ人が登場しない『ベニスの商人』など、考えることができるであろうか。同時にこれらは、文明戯『肉券』が、かなり杜撰な手続きで作られたことを示している。

結局、文明戯『肉券』は、端的に言えば、あらずじと人名はシェイクスピアから借りているが、内容は実質的に中国の劇なのである。当時の文明戯は革命運動と共に発展した来たる名残で“社会教育”を標榜していた。『肉券』は、吝嗇の戒めや女性の能力を評価するというような“社会教育”の効果をもった劇とみなされていたのかもしれない。また、『ベニスの商人』から一貫し

て存在している、裁判終了後のポーシャの指輪をめぐる滑稽は、滑稽を身上とする文明戯のこゝとてその独自の演技と結びついて、観客を大いに楽しませたことであろう。

しかし、当時の中国人は「肉券」をやはり外国劇とみなしていたらしい。広告中の「泰西名劇」という言葉がこのことをはっきり物語っている。また「新劇考証」には、「肉券」は西洋新劇の項に収録されているのである。当時の文明戯の観客には、外国風の発音をする人名をもった人間が登場し、舞台が外国風の装置衣装で飾られていれば、それで充分だったのである。一九一〇年代の中国におけるヨーロッパ理解は、まだ表面的なものにとどまっていたのである。文明戯は台詞劇ではあるが、写実の演劇としては不徹底であったことは、「肉券」からも伺えるのである。

この時期の文明戯を代表する劇団である新民社、民鳴社、春柳社の上演演目をみると、新民社は一九一四年五月十三日夜、五月二九日夜（女律師）、六月十四日昼、七月一五日夜（女律師）、一一月七日昼（女律師）、一一月三〇日夜（女律師）と、四月五日と合わせ計七回上演している。民鳴社は一九一五年一月二九日夜に「女律師」を上演しているが、これは新民社を吸収した後の上演で、実質的には新民社の上演である。春柳社では、「肉券」「女律師」とも上演はない。

新民社が一年半の存続期間の間に七回上演したのは、少ないとは言えないが、多いとも言えない。新民社上演回数第十位の「情天恨」（「恨海」）は、上演回数十一回である。（「馴悍記」については、上述の一九一三年一〇月一五日のほか、一九一四年七月一四日夜、一一月一〇日夜の計三回上演している。）その他の「吟辺燕語」訳名による公演は、新民社にはない。民鳴社は、上述の「女律師」のほかはシェイクスピアもの上演はない。春柳社も同様である。

このように、文明戯最盛期の一九一四年前後には、シェイクスピア関連上演は決して多くは無かった。坪内逍遙に師事し文芸協会「ハムレット」にも出演歴がある陸鏡若をリーダーとする春柳社が「吟辺燕語」脚色作品を上演していないのは、陸鏡若はシェイクスピア戯曲に拠る上演を直接体験しただけに、一種のまがい物上演には耐えられなかったのかも知れない。

ただし春柳社は陸鏡若が自ら「オセロ」を脚色した「春夢」を一九一五年四月三日に上演している。次のような上演広告が掲載されている。「春夢はイギリス・シェイクスピアの名著で、原名をオセロと言う。劇中の

哀感は頑なに艶やかで、曲折して人を立ち止まらせない。名人の名作は、名が無駄には伝わってはいない。ここに陸君鏡若の訳・脚色を経て、名を「春夢」という。その叙述はほんやりと、春の花が咲き乱れ、夢幻のように朦朧としているからである。これを観るのは、直接体験するのが一番である。その脚色の美しさ、珍しさは、人に不思議な思いを感じさせるのである。」(19) 残念ながら公演は成功しなかったようで再演は無く、ここではこれ以上述べることはできない。

文明戯が盛んにシェイクスピアものを上演するのは、最盛期を過ぎた後文明戯を支えた笑舞台においてである。笑舞台は、一九一五年二月一四日に沐塵舞台の名で創立された劇場が、何回か名称を変えた後一九一六年二月六日頃から笑舞台としたものである。民鳴社が一九一七年一月に解散した後、文明戯上演の中心となった。笑舞台は一九二九年頃まで存続し、「女律師」「黒將軍」「金環鉄証」(シンペリン)などの劇を上演したことが指摘されている(20)。笑舞台についてはまだ研究が進んでいないため、そのシェイクスピア物上演についても別の機会に考察することとしたい。

いずれにせよ、中国でシェイクスピアの完全な形での翻訳が出現するのは一九二〇年代に入ってからであり、完全な形での上演は三〇年代以降である。中国の西洋理解が本質に達し、しかもそれが一定の社会的広がりをもつには、やはり「新青年」の出現と五四運動を待たねばならなかったのである。

19 春夢為英国沙士比亚名著，原名倭塞羅。劇中哀感頑艶，迴不猶人。名人名作名下無虛。茲經陸君鏡若訳編署，其名曰春夢。蓋其中鋪叙恍若，春花燦爛，夢幻迷離，觀之不等身親歷，而輻綴之妙，轉折之奇，尤屬令人不可思議。

20 笑舞台については、黄愛華「上海笑舞台の変遷及演劇活動考論」(袁国興編「清末民初新潮演劇研究」 広東人民出版社 二〇一一年)がある。同論文ではシェイクスピアについては触れられていないが、黄愛華「笑舞台与文明新戯後期劇壇」(二〇一一年十月十五日早稲田大学演劇博物館講演原稿)では、シェイクスピアについても触れられている。